修正版司法面接プロトコル（2014 年版）

A. 導入

私の名前は _____ です。今日は __年__月__日で，時刻は__時__分です。私は ○○○○○ さん【子どもの氏名】に，_____【場所】で面接をします。」

[録音録画が ON であることを確認する。]

こんにちは○○さん，今日は来てくれてどうもありがとう。体調はどうですか。

私の名前は _____ です。私の仕事は子どもから，何があったか話を聞くことです。ほら，ここにビデオカメラがあります。○○さんが話したことを全部覚えておけるように，この会話は録音します。ときどき私は話したことを忘れてしまうことがありますが，録音しておけば，全部書き取らなくても，お話に集中することがでできます。

[導入では，友好的な動作を示すことが好ましい。]

B.ラポールの構築と自由報告の練習

B.1 それでは，○○さんのことをもっと知りたいので聞きますね。○○さんは何をするのが好きですか。

[子どもの応答を待つ]

[子どもが答えたならば，感謝の気持ちを著し，強化する]

話してくれて，どうもありがとう。このように話してくれると よくわかります。○○さんのことがわかってきたので，嬉しいです。

[子どもが直接自由報告の練習に進んだほうがよいと考えるならば，B.3に進む。]

[子どもが答えない，応答が短い，または止まってしまったならば，このように言うこともできる。]

○○さんとお会いしたのは，初めてですね。だから，私は○○さんのことをもっと知りたいんです。今日は○○さんとお話ができて，嬉しいです。

[さらなるラポール形成が必要だと思われる場合は，B.2に移る]

[子どもが話したがらない，または抵抗（睨む等）するようならば，すぐにこのように言う]

○○さん，お顔を見せてね。

○○さん，もっとこっちに来て，近くに座ってください。

○○さん，泣いてるんですね（お話ししないんですね）。お手伝いができるように，何が会ったか話してください。

○○さん，お話を聞かせてくれて，どうもありがとう。どんなことがあったか，どうぞ私に話してください。

B.2 本当に，○○さんのことをもっと知りたいんです。学校で（休み時間に，放課後）何をするのが好きか，話してください。

[しばらく応答を待つ]

[話したがらない，または抵抗を示す場合は:]

[面接が始まる前に選んでおいた中立的なトピック（保護者に教えてもらった，子どもが好きな活動等）について話すように求める]

〇〇さんは（活動，趣味）が好きだと聞いてますよ。その（活動，趣味）について，話してください。

[目立った事柄（服装の模様等）について尋ねる]

[目立ったもの（サッカーチームのTシャツ）等]を着ていますね。そのTシャツのことを話してください。

[絵を描かせる（「ラポール形成の描画」付録1）]

〇〇さん，何か（〇〇さんが好きなこと，楽しかったこと）の絵を描いてみませんか？ここにクレヨンや紙がありますよ。

B.3 では，〇〇さん，（子どもがすでに述べた活動）のことを，もっと話してください。

テレビの番組，ビデオ，ファンタジーは避ける。応答を待つ。

B.4 〇〇さん，（学校，幼稚園であった）楽しいことを話してください。

B.5 （子どもがすでに述べた活動）のことを，もっと話してください。

種々の誘いかけ質問を用いて，異なるトピックについて話してもらう:このような誘いかけの一つは，考え，気持ち，感覚，感情などの内的な内容に焦点化したものとする。

B.6 〇〇さんは，（嬉しかったこと，楽しかったこと，面白かったこと）を話してくれましたね。今度は（学校，幼稚園）であった，嫌だったことについて話してください。

[重要！虐待が起きた可能性のある場所は，出さないこと。]

B.7（子どもが話したこと）について話してください。

[種々の誘いかけ質問を用い，様々なトピックについて，より多くの情報を引き出す。このような誘いかけの一つは，考え，気持ち，感覚，感情などの内的な内容に焦点化したものとする。]

[子どもが辛い内容につき明かしたならば，サポーティブな言葉をかけながら，その話題について少しだけ深める。その出来事につき，子どもが誰かに報告したかチェックしてもよい:]

悲しかったことについて，話してくれましたね。〇〇さんは，このことを大人の人に話しましたか？

[子どもが「いいえ」と言ったならば，次のように言う:]

〇〇さんが，誰かに話せるように，お手伝いしましょうか。

B.8 ○○さんは，（子どもが話した楽しかったこと）や（子どもが話した悲しかったこと）について話してあくれました。そして，○○さんの（感じたこと，考え）を，教えてくれました（子どもがそのようにしていたならば）。話してくれてどうもありがとう。○○さんは，いいことも，悪いことも，どんなことでも私に話せる，というのが分かりましたね。これはとっても大事なことです。

C．説明とグラウンドルールの練習

[質問を，子どもの発達レベルに合わせなさい]

C.1 ○○さん，私は○○さんのことを知りたいと思っています。今日は，いろいろ質問をします。もしも質問の意味がわからなかったら，「□□先生，わかりません」って言ってください。○○さん，いいですか？

[間をおく]

もしも，○○さんの言ったことがわからなかったら，説明して，と言います。

[間をおく]

[私が質問しても，答えを知らなかったら「知らない」と言ってください。では，○○さん，私が[私は朝ごはんに何を食べたでしょう等]と言ったら，○○さんはなんといいますか？

[応答を待つ]

[子どもが「知らない」と言ったならば:]そうですね。○○さんは知らないですよね。

[子どもが当てずっぽうで答えたならば:]いいえ，○○さんは私のことを知らないし，[私が今朝，朝ごはんを食べたとき，私と一緒にはいなかった等]から，知らないでしょう。答えを知らないときは，当てずっぽうで言わないで，「知らない」と言ってくださいね。

[間をおく]

でも，知っていたら，または思い出したら，そのことを教えて下さいね。いい？これはとっても大事なことです。

C.2 もしも，私が間違ったことを行ったら，間違ってるよと言ってください。○○さん，いいですか？
[応答を待つ]

では，私が〇〇さんは2歳の女の子ですねと言ったら（本当は5歳男児だとして），〇〇さんは何と言いますか？
子どもが否定するだけで，訂正しなかければ：私が間違って，〇〇さんを2歳の女の子ですね（5歳男児に対して）と言ったなら，〇〇さんは何と言いますか？
[応答を待つ]

[子どもが正しい答えを言ったなら，強化する：]
〇〇さんそうですね。もしも私が間違ったり，正しくないことを言ったら，間違ってるというのがわかりましたね。
[間をおく]

[誤った応答を訂正する：]いいえ，〇〇さんは（異なる年齢：2歳等）ではありませんね。〇〇さんは（本当の年齢）です。
では，私が，〇〇さんは（異なる性）です，と言ったらなんといいますか？
[子どもが正しい答えを言ったならば強化し，間違いを訂正し，練習を繰り返す。]
では，私が〇〇さんは立ってます，と言ったら〇〇さんは何という？
[応答を待つ]
そうですね。
〇〇さん。私がもしも間違ったことを言ったら，間違ってるよと言い，正しい答えを教えてください。
C.3 私の仕事の一つは，子どもから何があったか話を聞くことです。たくさんの子どもと会って，何があったか，本当にあったことを話してもらいます。〇〇さん，今日は，〇〇さんが体験したことについて，本当にあったことを話すのがとても大切です。

D. さらなるラポール形成とエピソード記憶の練習

面接の前に，子どもが最近参加した，短くポジティブで意味のある出来事を見つけておく。可能であれば，申し立てられた，または疑いのある虐待と同じ時期におきた出来事であることが望ましい。申し立てられた虐待が，その特定の日または出来事の最中に起きたのであれば，別の出来事について尋ねなさい。

〇〇さん，今日はお会いできて嬉しいです。〇〇さんのことをもっと知りたいので聞きますね。

D.1「何日（週間）か前，[お休みの日，お誕生会，その他の出来事]がありました。そのとき（最中）にあったことを，最初から最後まで全部，できるだけたくさん話してください。」

もしも適切な出来事が事前に見つからなかったら次のように尋ねる：最近，なにか特別なことをしましたか？どこかに行くとか，お誕生会に行くとか出かけるとか，
[応答を待つ]

もしも子供が適切な出来事を見つけなかったら次のように言う：それでは，[今日，昨日]朝起きてからのことを，どんなことでも全部話してください。

[出来事の最初の活動を繰り返してください。そして次のように尋ねる]
「で，何があった？，〇〇さん」

D.2　誘いかけのフォローアップ

[この質問を，出来事のすべての説明が行われるまで使いなさい。]
どうもありがとう，〇〇さん，たくさんのことを話してくれました（話してくれたならば）。〇〇さんが話してくれたことについて，もう少し聞きますね。

D.3 時間分割
[子どもの能力や反応に合わせて，できれば 3 つの時間分割質問を行いなさい。]
〇〇さん（　　）のことを全部話してもらいたいです。
（子どもが述べた活動）の最初のところから（その後の活動）の終わりのところまで，全部話してください。

[子どもにとって出来事の区切りを理解するのが難しいようであれば，このように言いなさい。]
（子どもが言った出来事の）はじめから全部話してください。
〇〇さん，話してくれてどうもありがとう。はっきり話してくれたので，とてもよくわかりました。

D.4 手がかり質問
[子どもの能力や反応に応じて，3 つの手がかり質問を使いなさい。考えや感情にも焦点を当ててください。]

[手がかり質問は二つのフォーマットで用いることができる。]
そのこと（活動，物，考え，感情）をもっと話してください。
〇〇さんは，さっき（活動，物，考え，感情）のことを話しました。そのことをもっと話してください。

D.5 〇〇さん，（出来事）のことを話してくれてどうもありがとう。今日お話しするときは，本当にあったことを全部お話しするのがとても大切です。
D.6 〇〇さん，だいじょうぶかな。

E. 本題

E1. 本題への移行

[重要！子どもが虐待のことを否認せずに，しかし，言葉で抵抗を示したら，E.1.a「表出された否定へのサポート」に飛び，他の移行的な質問を用いずに，抵抗に対応しなさい。]

〇さんのことが少し分かってきたので，今日は〇さんがどうして[ここに来たか]，お話ししたいです。

[どの段階でも，子どもが申し立てをしたら，E.2 に飛ぶ。]

子どもが関係のないことを報告したら，「〇〇さんが言うこと，聞いてますよ。もしもそうしたかったら，そのことをあとで話すこともできますよ。でも，今は，〇〇さんにあったかもしれないことについて聞きたいです。」

1.「何かあったかもしれない，と思っています。最初から最後まで全部お話ししてください。」

2.「前にも話したように，私の仕事は子どもからあったことについてお話を聞くことです。〇さんがどうして[ここにいるか，ここに来たか，私がここにいるか]，お話ししてもらうことがとても大切です。今日はなぜ[お母さんと，おばあさんと]ここに来たんだと思いますか」[または，「私は今日なぜここに話しに来たんだと思いますか？」]

3. [子どもが申し立てをせず，避けようとしたり，抵抗しているように見えたら，一般的なサポーティブな言葉を言いなさい。ただし，子どもに関連づけることはせず，また，虐待に言及しないこと。]
a. 〇〇さん，私の仕事は，子どもから，何があったかを聞くことです。
b. 〇〇さん，子どもに何かあれば，私はどんなことでも全部聞きたいです。私は，そのためにここにいるんですよ。
c. 〇〇さん，ここでは，よいことも，悪いことも，あったことはなんでもお話しできますよ。
d. 子どもを助けよう，とするのが私の仕事です。

4.「〇さんが[いつ，どこで]，[お医者さん，先生，児相の先生，その他の専門家]に話をしたと聞いています。その出来事についてお話ししてください。」

5.「〇〇さんの_____【体の場所】に[跡，傷，あざ]がある [あると聞いた]けれど，そのことについて，全部お話ししてください。」

6.「[申し立てられた出来事の場所，時間]に何かありましたか。」

[子どもが申し立てをせず，避けようとしたり，抵抗しているように見えたら，上の a-c，あるいは下の言葉を使ってもよいかもしれない。これらは子どもに関連することだが，虐待についてはまだ述べないこと。]

d. 〇〇さんは自分のことをたくさん話してくれました。私は，〇〇さんのことがよくわかったてきたと思います。〇〇さん，(どんなことがあったか，よいこともよくないことも)あったことをもっと話してもいいですよ。
e. 〇〇さんは自分のことをたくさん話してくれました。どうもありがとう。今日，お話ししているときは，どんなことでももっと話してください。あったことを，どんなことでも話してください。
f. 〇〇さん，他にも話したいことがあるのだったら，(聞きたいですよ，話してもらうことがとっても大事です)。

「申し立てが出ない，または否認であれば：計画を確認し，次のステップを計画しなさい。」
子どもの言語的／非言語的なリラクタンスを用いて状況を評価し，先に進むかどうかを決めなさい。面接を終えることも検討しなさい（E.1.b に飛ぶ）。子どもが抵抗する／協力を拒んでいると考えられ，さらなるラポール形成が有用だと考えられる場合は，さらなる面接を計画しなさい（付録 2）。
以下のことが疑われる場合は，本題への移行の質問を，少しずつ進めなさい。
−虐待は起きていない（なぜ疑いが生じたかを理解することは重要であるので）。
−子どもが面接の目的を理解していない。
−子どもはあなたの努力に抵抗し，協力を拒んでいるが，子どもの福祉，または捜査に関し重大な懸念がある。

7.「〇〇さん，誰かが，嫌だなと思うことをしましたか。」

8.「〇〇さん，誰かが，よくないことをしましたか。」
[応答を待つ]
[子どもが申し立てをしたら，10 に行く]
[子どもが詳細な報告をしたら，10a に行く]
[子どもがそれを認めないか，申し立てをしなければ 8 に行く]

9.「誰かが[人物を特定することなく，また詳細を伝えることなく，申し立てられていることを告げる]しましたか。」

子どもが申し立てをせず，避けようとしたり，抵抗しているように見え，疑いを生じさせる独立の証拠があったならば，上のサポーティブな言葉（a−f）または，以下の言葉を言いなさい。

g. 〇〇さん，（私／人）が，〇〇さんのことを心配しています。何かあったか，話を聞きたいです。
h. 〇〇さん，もしも何かが起きていて，それを止めたいと思うのなら，そのことを話してだいじょうぶですよ。
i−1. 〇〇さん，話すのが難しいとしたら，何が難しい？
i−2. 〇〇さん，心配なことがありますか。
i−3. 〇〇さん，話したら，どうなると思いますか。
i−4. 〇〇さんが，誰かに，話してはいけないと言いましたか。
j. 何かがあったとき，自分が悪いからだと思う子どももいます。でも，何かがあったとしても，それは子どもが悪いからではありません。
k. 話すか，話さないかは〇〇さんが決めることですよ。私の仕事は，〇〇さんに，どうするかを決めてもらうことです。

10. 〇〇さん，（〇〇さん，誰か）が（人物を特定することなく，また詳細を伝えることなく，申し立てられていること）を話してくれました／見たと言ってます。それで私は何かがあったのか，知りたいんです。

E.1.a 否定に対処するためのサポーティブな言葉

子どもが開示することに困難やリラクタンスを明確に示す場合，しかし，虐待を否認していない場合，サポーティブな言葉(a-k)や，話したくないという明確な否定に対処する以下のような言葉を用いてもよい。

1. ○○さん，(子どもが言葉にした困難，例えば「恥ずかしい」など)のこと，わかります。まずは話してみましょう。応援しますよ。
m. (子どもが言葉にした困難)という子どももたくさんいますが，応援します。
n. (子どもが言葉にした困難)だということ，わかりますよ。そのことをもっと話してください。
o. [確信がないと表明したならば]きっとお話しできると思いますよ。

p. [子どもが何か特定のことが心配だと述べ，あなたが安心させられる材料が事実であるならば]「心配しないでください。私は(他の子供には言いません／○○さんがバスに乗り遅れることはないようにします。)」
q. 話すかどうかは○○さんが決めていいんです。私は○○さんが決めた通りにします。

[虐待の可能性について調査するなかで，子どもは抵抗／非協力的であり，さらに子どもと会うことでラポール形成ができると信じるのであれば，面接を終え，さらなる面接を計画しなさい(付録 2)。面接を終えたければ G に進みなさい。

E2. 出来事の調査
[本題では，最初から最後まで，子どもとのラポールを維持し強化すること，サポーティブな言葉を提供し続けること，表明された抑制，悲しみ，葛藤に対処することが重要である。]

E.2.a 自由再生質問
10. a. 出来事に関する最初の自由報告の誘いかけ

[子どもが特定の出来事に言及したならば]
○○さん，(子どもの話した申し立ての要約)と話してくれましたね。このことを最初から最後まで全部話してください。

[子どもがいくつもの出来事を話した場合]
○○さん，(子どもの話した申し立ての要約)と話してくれましたね。(最後にあった／最初にあった／(場所)であった)／(時間)であった／特定の出来事)を最初から最後まで全部話してください。

[子どもが一般的な言い方をし，出来事の回数が決められないとき]
○○さん，(子どもの話した申し立ての要約)と話してくれましたね。それは，1 回だけでしたか，それとも 1 回よりも多かった？[答えに応じて，最初の自由報告を誘いかける。]
(10.a)。

[それでもまだ，表現が一般的であれば次のように言いなさい]
○○さん，(子どもの話した一般的な表現)と話してくれましたね。何があったか，最初から最後まで全部話してください。

10.b.誘いかけのフォローアップ
[出来事において述べられた活動／生じたことの表現を繰り返す。そして次のように尋ねる]
それから何がありましたか。

[申し立てられた出来事の報告を全部聞き取るまで，この質問を繰り返し用いなさい。]

10.c.時間分割質問

たくさんのことを話してくれたので，何があったかわかりました。それでは，〇〇さん，（その出来事）についてもっと質問をしますね。

〇〇さん，（その日，夜）のことを思い出してください。そして，（子どもが述べた活動）から（子どもが述べた，その後の活動）までにあったことを，全部話してください。

[申し立てられた出来事のすべての部分が詳細に語られるように，この質問を必要に応じて繰り返し用いなさい。]

10.d. 手がかり質問
[手がかり質問は二つの形を取る]
-（活動，事物，感情，考え）についてもっと話してください。
-〇〇さんは，（活動，事物，感情，考え）と話し／言いましたね。そのことをもっと話してください。

[この段階を通じ，必要に応じ，この質問を，繰り返し使いなさい]

[重要！WH 質問に行くのは，自由再生質問を使い切った後である]

E.2.b WH 質問
[オープン質問を使い切っても申し立ての中心的な詳細がまだ欠けている，明らかでないならば，WH 質問を用いなさい]

11. 〇〇さんは（活動，事物，感情，考え）と話し／言いましたね。（どのように，いつ，どこで，誰が，何を，どれを，何回，どういう意味ですか）？

[可能な限り WH 質問にオープン質問を組み合わせることが重要である]
そのことをもっと話して。

E.2.c 複数の出来事を探る

10a-11 への応答において，子どもが一つの出来事を話したならば:

12. ○○さんが今話してくれたことは，1 回だけありましたか，それとも 1 回よりも多かった？
[子どもがそのような出来事は 1 回よりも多かったと述べたならば，10.a.に戻り，さらなる出来事について調査をしなさい。一般的には，最後，最初，そしてもっともよく覚えている出来事について尋ねるのがよい。]

（子どもの話した申し立ての要約）と話してくれましたね。（最後にあった／最初にあった／（場所）であった）／（時間）であった／特定の出来事）を最初から最後まで全部話してください。

E.2.d ブレイク
○○さん，これから私がちゃんと理解しているかどうか，他にも聞かなければならないことがあるかどうか確認してきます。何分かかけて，○○さんが話してくれたことを考えてみます／ノートを見返します。

[ブレイクの最中，あなたが得た情報を見返し，欠けている情報があるか確認し，残りの面接を計画しなさい。まずは選択式（クローズド）質問の形でつくり，それをオープン質問か WH 質問のかたちにするとよい。]

E.2.e クローズド質問-子どもがまだ述べていないことについての情報を引き出す

[これらの焦点化された質問は，他のアプローチをとり，それでも司法的に重要な情報のいくつかがまだ欠けていると気づいたならば，そのときに限って行う，ということにすべきである。可能な限り，クローズド質問にはオープン質問を組み合わせる（「そのことを全部話して」）ことがたいへん重要である]

[複数の出来事ある場合は，適切な出来事を，子ども自身の言葉で語らせるべきである]

13.○○さんが（特定の時間，場所に埋め込まれた特定の出来事）のことを話してくれたとき，○○さんは（活動，物，感情，考え）と言いました。それは（確認したい特定のことがら）でしたか／ですか。[例：サラさん，ルイスさんとキッチンにいたと話してくれたとき，他の人もあなたと一緒にいましたか？]

[適切であるときは，誘かけを伴わせなさい]
その（活動，物，感情，考え）のこと，全部話してください。

[次の出来事に進む前に，それぞれの出来事についての不明な情報は，すべて得るようにしなさい]

F. 開示情報

○○さんは，今日，どうして話しにきたか，話してくれました。たくさんのことを話してくれたので，何があったかよくわかりました。

[子どもが誰かにその出来事のことを話したと言ったならば，次のように言ってもよい]
それでは，他の人がどうして（最後の出来事）を知ったのか，知りたいです。

[誰かに話したという報告がなければ，開示の可能性について，次のように探りなさい]
何があったか知っている人はいますか？

[開示があった時間，状況，受け手，その出来事についてのやりとりの可能性，子どもと受け手の開示に対する反応について，開示のプロセスを調べなさい。できるだけオープン質問を用いる。]

G. 面接の終結

〇〇さん，お話しが終わったら何をしますか。

[中立的な事柄について何分か話す]